

すくすく

エンゼルでの与薬



お薬を上手に飲むための工夫

「家でもうまく薬が飲めないのに、エンゼルでお薬を飲めるかしら」と不安を感じる保護者の方も多いのではないのでしょうか。苦手な薬を慣れない場所で飲まなければならないことは、子どもにとっては大変なことかもしれません。今回はエンゼルでのお薬を上手に飲むための工夫を、いくつか紹介させていただきます。

0歳～1歳くらい
お薬団子で・・・



* 一滴ずつ水を垂らして
しっとりとした砂団子の
ように固める

- ・お薬団子を頬の内側、上あごに塗り、白湯またはお茶で飲みこむ
- ・舌の上に塗ると苦味を感じやすいので避ける



お薬の時間の前から、声をかけて
かかわりを持ち、子どもに安心して
もらえるようにしています

スポイトやスプーンを使って・・・



* 少量の水で溶く



- ・乳児の右手とわきの間に、体を入れて乳児の右手を固定、与薬者の左手で乳児の左手を固定して、しっかり抱くとよい
- ・薬を口角から頬の内側に少しずつ入れて、スポイトを口から出して、10秒くらい待つという動作を繰り返すと吐き出しにくい



- ・口の中を傷つけないように気をつける
(先の丸いスポイトを使用するとより安全)
- ・誤嚥に注意する

おとなの話がわかるようになる、幼児期には・・・

- ・子どもにわかりやすい言葉で、薬の必要性や効果を伝えて、自分で頑張ろうという意欲を引き出す
- ・症状がよくなったら、薬を使ってよくなったことを伝える
- ・薬を飲む方法を子ども本人に選択してもらう



ぼくは、四歳だから
自分で飲めるよ



お薬のむとお熱が
下がるよ

がんばって飲めたね
すごいね！！

お薬飲んだら、咳が
出なくなったね

「次はきっと飲めるよ」

最後はお薬を飲めたこと、スムーズに飲めなくても飲もうと頑張ったことをほめて
喜び合い、子どもの頑張る気持ちを育てていくように心がけています

与薬方法や子どもの薬に対する反応は、子どもの成長に伴って変化します。味覚が発達し、自我が芽生え「イヤイヤ期」が重なり薬嫌いの傾向が続くこともあります。お父さん、お母さんを困らせることもあるかもしれませんが、あせらずにゆっくりと向き合っていきましょう。お薬が上手に飲める第一歩となるように、エンゼルでも与薬の工夫を充実させていきたいと思えます。



* 令和5年度「すくすく・冬号」では「薬の正しい飲み方」、令和6年度「すくすく・春号」では「預かる薬について」を掲載しています(ホームページバックナンバーをご参照ください)